

## 塩野室地区“まちづくり懇話会”会議録

日時：平成 29 年 6 月 24 日(土) 14:00～16:00

場所：小林公民館

- 次第：1 開会 地域振興課長  
2 挨拶 日光市長 斎藤文夫  
3 内容 (1) まちづくり懇話会とは  
(2) テーマ「交通手段の確保」について  
(3) 意見交換  
4 その他  
5 閉会

### 《意見交換内容》

**参加者：**まず私がお願いしたことだったのですが、JR 宇都宮～船生線で確保の問題、それから後は今市～下小林的公共交通は、ぜひお願いしたいなということなのですが、下小林線の場合は、バスの中を見ているとガラガラなのです。その辺をどうしようかということが1つのことなのですが、後は合わせて、結局は下小林線に対しまして、上河内線のほうにバスが来ているものですから、その接続問題を考えたほうがいいのかということも1つでございます。それから後は、下今市から日光医療センターに行くのですが、帰りの便が上手く合わないということがありまして、いろいろと細かいことがございます。後は、特に免許証の返納者が非常に増えています。返納しようという方も多くいますが、それに合わせましてデマンドということをやっていきたいと思います。財政支援などいろいろな課題があるのですが、その辺のいろいろなご意見等を聞きながら、進めていきたいと思っています。

**市民生活部長：**事前にアンケートをいただいておりますが、下小林線の利用が少ないというのは、どこに原因があるかということも、もう一度検証して、せつかくの幹線路線ですので、これはご利用いただけるようにそこは今後やらなければならないと思っております。この地域に限ったことではないのですけれども、やはり幹線路線までの支線というのは、どの地域でも悩みは一緒でありまして、今、デマンドということがありましたが、他の地域でもバス路線を廃止してデマンドというところもございます。この前の計画が平成 22 年に策定し、その後に取り入れたところはあるのですが、デマンドという言葉自体が先走りみたいなのところがありまして、何でも解決できるというようなイメージがあり、やってきたわけですけれども、やはり一長一短もございまして、結果的に利用は伸び悩んでいるというところがあります。その地域にあった活用と言いますか、何が一番大切なのかと、全部が全部というところまでいくのには難しいところがあるのかなと思います。今後の話なのですけれども、何を利用して、それが民間の事業者の方の力を借りるのか、地元や地域の力でやるのか、道は何本かあると思います。国のほうのそういった法律までも緩やかにはなって

きておりますので、やりようによっては地域のためになるようなものもできるのかと思います。ただ、どうやればというのは凄く難しい話でして、これは少し時間をかけて民間の事業者の方のご意見も伺いながら、皆さんで考えていただかなければならないのかというところがあります。市がこういうふうにやりたいということを作るのは少し難しいのかと。非常に広い地域全体を、統一的な考え方でいくのは少し無理があるのかなという感じを受けておりますが、まずは市としては、幹線路線の維持、そういったものを公共交通として、そこはまず考えていきたいというのがありまして、その後支線につきましては、じっくりと地元の皆さんと話し合いながら詰めていこうと考えております。

**参加者：**ありがとうございます。あと現状は塩野室地区でもどうしようかというのが本音でございます。ただ、幹線の路線は維持していかなければいけないのだけれども、どうやって維持していけるかということで、実際に具体的な答えや、市や県、国とかから援助をもらうにしても、お金やいろいろな問題が絡むと思うので、とにかく今出発の状況でございます。地元としてどうしたらいいのか悩んでいまして、塩野室地区としましては、完全に山の中であっても何かあれば行くのですけれども、結局出る気であれば、今市でも塩谷町、宇都宮市も行けるものですから、まとまり具合というのが今非常に広範囲になっております。病院といっても、塩谷病院や日光医療センターに行ってみたり、宇都宮の病院に行ってみたりと、まとまりにくいのが現状なのですが、そういうものも地元では共有していきたいと思っています。

**参加者：**2、3日前の新聞に、日光市でやっているデマンドが出ておりました。100円で1カ月やってみるといのが出ていました。どこの路線かわからないのですが、まず、その目的をお聞かせ願いたいのです。

**市民生活部長：**デマンド交通は、落合と小来川、猪倉3本あります。先ほども少し触れましたけれども、やはり利用率がなかなか上がらないので、たぶんこれは金額だけの問題ではないのですけれども、一昨年、決まった停留場というのをやめて、ドア・ツー・ドアという方式、自分のお宅の近くまで行けるようなことをしました。そして、365日休みなしで回してまして、これはたぶん他ではあまり例がないことなので、サービスの的にはやれることはほとんどやっているような状態です。この事業は、国の認可を受けておりまして、ある程度の利用率がないと補助もいただけないという裏事情もございまして、何とか利用率を上げようということ、使ってもらいきっかけをつくりましょうということで、今回は通常300円のところを100円ということで、やってみようということになったわけです。

**参加者：**今日この話合いがあるということで、私は小林4区なのですが、4区内で例えば関東バスを常に利用している人は誰だろうというふうに考えてみたのですが、正確性はないのですが、常に利用している方は1名ほどしかおりませんでした。その方は免許がないので日光医療センターに通う足がなく、関東バスを利用して1日かけて行くそうです。その他の方は、

そういう境遇にあっても家族が乗せて行ったり、親戚や近所の方がやってくれるということで、今は差し当たってなかなか利用性はないのではないかと考えております。ですから5~10年先を考えた場合には必要かと思うのですが、2~3年先を考えた場合に、必ずしも急いでやる必要はないなあと、やるにしても有料で個人の車を使うとかそういう簡単なもので、大きな車ではなくそういうものからやったほうがいいのではないかと考えています。特に小林地区は、先ほどの方が言ったように買い物をするのも、今市市ばかりではなくて、宇都宮市や塩谷町などいろいろな方面に行っています。ですから、ほとんど自家用車利用が99%というのが現状です。ですから、この話はよくわかるのですが、今焦って皆やろうとするのは少し早いのではないかと考えています。やる時には、その地区約800戸にアンケートを取るような考えでやらないと、やってみたが、それみたことかでは困るので、その辺だけよろしくお願いします。

**市長：**貴重な意見だと思います。あまり利用がないと、先ほど言われた300円を100円にしても利用が増えるかというのはわかりません。たぶん大幅に増えることはないと思うので、いろいろな計画の中で参考にさせていただきたいと考えております。ありがとうございます。

**参加者：**当時、私の娘が16~17年前に、今市高等学校で2人揃って部活をやっていました。それで朝は関東バスで行って、部活をやっているもので夜遅くはバスがないということで、家族が迎えに行ったりして大変苦労いたしました。今は、どうなっているのかわからないのですが、赤字路線かどうかかわからないのですが、やはり最低限朝晩のバスがいくらか通っていたのは関東バスのみだと思います。そのようなことで、よい方法を検討してみてください。

**市長：**それは、高校に通うためのバスですね。路線バスは、今も少ないですね。

**参加者：**現況は、例えば家の近所で作新高等学校に通学している子が多いのですが、路線バスで行くと塩野室で乗り換えをしなければならないので、篠井を通過して日光街道に出てしまいますので、そこまで自家用車で送って行きます。帰りも迎えに行っているのが現状です。

**参加者：**私のほうは先ほどアンケートにも書いたのですが、市民生活部長が言われたように、今すぐ塩野室地区で交通に困るということはないと思うのですが、このアンケートどおり10年先を不安に思っているという方が8割いるということで、どうしても高齢者の事故が多発していたりということで、免許の更新制度が厳しくなるということになりますと、当然免許を持たないということで、バスの公共交通の利用ということなので、長い目を持って考えていく必要があるのではないかとこのように思っているのですが、日光市のほうもこういう計画を持っていただいていると思うのですが、こういう計画自体の策定は、何かヒアリングをもってこういう意見を吸い上げているのかというのが1

点と、鹿沼市では、免許返納者にバスの無料券を1年更新で渡すということで新聞にも出ていたと思うのですが、そういう案を今、日光市としても考えられているのかというのと、もう一つは私も高校に娘を通わせているのですが、電車がなくてバスということになりますと、電車との価格差がだいたい3倍くらいです。電車で行きますと定期代は7,000円くらいなのですが、バスだと2万5,000円くらいします。たぶん今市方面の路線としても同じくらいのような感じだと思います。なおかつ駅までの送迎ということで、高校生をもつ親としては子育てのしづらい地区だと思いますので、他の駅から近いとか駅がある地域の方でしたら、駅を利用してということなのですが、この塩野室地区に関しましては、そこまでの送迎とか費用の負担、人的負担が大きくなってきているということで、子育ての面から見て交通がもう少し早急に改善されればいいというふうには思っております。

**市民生活部長**：最初の計画をつくる上で、ヒアリングをやっているのかということなのですが、各地域に出向きまして、全員の方ではありませんが、各地域の方からご意見をいただく機会は設けております。それから、鹿沼市の例ということなのですが、当市でも免許を返納された方には限った金額ですけれども、利用券は差し上げているところです。この鹿沼市の事例からいたしますと、要は高齢の方全員ということになりますので、高齢者対策をどうするのかという、福祉分野が強くなってきますので、単に公共交通というよりも、プラス高齢者対策という部分も一緒に考えていかないといけないという感じを受けました。ご事情は重々わかります。電車があるから逆に良いのかという少し無責任なのですが、各地域の皆さんそれぞれにそういうご事情や悩みを抱えているのは承知しております。その中で公共交通として、どこまで行政がやっていけるかというものは、冒頭に申しましたように、やはり地域の方々と相談しながら、どこまでできるのかという話になっていくのかなと思っております。

**市長**：返納の件ですが、高齢者の事故防止のためで、日光市もそうなのですが、死亡事故はやはり高齢者が多いのです。ただ、市民生活部長が言ったように、返納した人は無料ですよと、同じような年齢の方はお金を払うのかということで、鹿沼の件は新聞だけでは中身がわからないので、我々も戸惑いましたが、それを一体的に解決しないと、おかしな制度になってしまうような気がするので、日光市としてはやはり市民生活部長が言ったようなかたちで、両方を考えながら制度設計をしたいと思っております。返納者は市営バスが無料であれば、たぶん同じような年齢の方も無料にしないと、不公平になってしまうという気がします。それと、通学費用の件ですが、今、この地域ではそれほど問題にはなっていないのですが、皆様方は切実に感じていると思うのですが、日光明峰高等学校が存続の危機にあるということで、通学のための費用負担であるとか、例えば下宿をつくってくれとか、これからどんどん進展してきますので、日光明峰高等学校だけを通学料金を半分にしますとかという話にはなっていないので、やはり皆様方の負担も一緒に考えないといけないものですから、わかりました結論をこうしますというわけにはいかないもので、やはり前の問題と同じように不公平感のない中で、さらに日光明峰高等学校を残すための方策とか、そうい

うことも併せて考えていきたいと思っております。

**参加者：**先ほどまで話が出ていたのですが、この地域はバスが通っていても、バスを利用している方が少ないということ、その理由というのが金額の問題だけではないと思います。バスの路線というところが、その近くに住んでいる人ばかりではなく、かなり遠いところから乗りたいという方も多いので、できましたら遠いところまで迎えに行ってくれるような、先ほどドア・ツー・ドアというお話が出ましたけれども、そういうふうな乗り合いバスのようなものができたほうが、皆さん使えるのではないかと思います。そういうところを検討していただきたいと思います。

**市民生活部長：**先ほどの話と同じことになってしまうと思います。公共交通という幹線バスが走っているエリアは、他の交通と重なるということがとても難しいのです。バスをなくして全部デマンドにするかとか、言ってみれば民間事業者の方の事業というのが前提にあるものですから、どうしてもそういうことになります。ただ繰り返しになりますけれども、法律も柔軟になりまして民間事業者の了解を得ながら、自分たちの力を使いながらという制度もできつつあります。具体的にというのは難しいのですが、民間レベルでそういう新しいデマンド方式も考えられつつあるとお伺いしています。ですから、否応なしに10年後にはそういう波が押し寄せてくるという、可能性もなきにしもあらずなのですが、早急にことを運ぶことは危険かと思いますが、何が必要なかそういうところからやはり考えていくのが一番いいのかなと、誰を救うのか、誰がどのくらい負担するのかというようなことをじっくりと考えて、まずそういうことで進んでいくのがいいのかと、今は、イメージで申し訳ありません。

**参加者：**今すぐそういうものが差し迫っているというかたちではないと思います。だから何年後かに、この地区は年配の方が多いため、車に乗れない方が増えてしまうので、それまでには何か方法があったらいいということは考えています。

**市長：**やってやれないことはないのです。ただ、とても経費がかかるということです。やはり便利さを求めるには、どこまでお金を使えばいいのかなということです。ふんだんにお金があればタクシーを使えると思うのですが、財政的に厳しい話になってしまいます。他にもやるものがたくさんあります。そのようなことでなかなかいい答えが出ませんけれども、その中でバランスがとれて、利便性を求めていきたいと思っています。

**参加者：**ほとんど言われてしまったのですが、私は年代別で交通手段が違うと思います。小学生で言えばスクールバスだと思うのですが、高校生であれば駅や学校までの足だと思います。お年寄りには先ほどから言われていますように、福祉タクシーとかということです。私も一番先に福祉タクシーと言ったのですが、私の家にも年寄りがいまして10年前くらいから、もう少し近くから乗れたらいいなということで、この地区はとにかく不便なので、ほとん

ど家族が送り迎えをしてしまっているのです、何とか今までやってきたのですが、今度は私たちの年代が車に乗れなくなったら、本当に足がなくなってしまうので、それを踏まえて考えていただけたらと思います。あと高校生の駅まで行く足というのは、自分でも子供を3人育てまして、送り迎えをだいぶしてきました。本当に何かいい方法があったらと思います。先ほど萱場にバスが来ていると言っていましたが、確かにバスが来ているのですけれども、利用者が本当に少ないです。逆にもったいないという感じです。それから関東バスが船生街道を走っていますが、1本に1人か2人しか乗っていません。だからバスが走ること自体が、逆にもったいなくなってしまうのですが、なくなると困る、何とか足を確保できたらといつも考えています。

**市長：**まさにそのとおりかなあと、私も思っております。日光市もあまり乗っていない関東バスに、多額の補助を出して走ってもらっています。栃木県も負担しています。この路線ばかりではないです。日光市内にたくさんあるわけなので、かなりの額の補助をしております。なかなか厳しいです。

**参加者：**やはり後期高齢者には、庭先から乗れるのが一番いいです。

**市長：**おそらく、近い将来はそうなると思います。

**参加者：**私は今のことではないのですが、将来を考えておそらく10年後には塩野室地区も相当の少子高齢化が加速すると思います。私たちも相当な歳になるのですが、その辺のところの将来を見越して、やはり考えていかないと大変です。どこへ行くにしても、交通手段がなくなると思います。その辺を日光市のほうで、10年後を見据えてそういうことを考えていただきたいのと、今、塩野室地区は関東バスが走っていますが、恩恵を受けている地区というのはごく限られています。確かに県道沿いの近くの方は、バスの停留場で乗れますが、そこまで行けない方が塩野室地区はたくさんいます。だから将来は、バスの停留場まで行く交通手段がなくなると思います。今、1、2人で生活している人がかなり塩野室地区は増えていますので、その辺のことや、介護をする人がいないと大変な問題になると思います。そのようなことで5~10年後を見据えて、大変な時期が来ると思っておりますので、その辺を市のほうにお願いしたいと思います。もう1つなのですが、私がいつも感じているのは、先ほどの話と重複しますが、今は小林~今市線と宇都宮~船生線を関東バスが走っていますけれど、とても乗車率が悪いです。ですから、あれだけ大きなバスを動かすとなると、日光市の負担が相当なものになっていると思うのですが、バスを小型化することは不可能なのか可能であるのか、あれだけのバスを動かす必要を私自身はないかと考えておりますので、その辺の考え方をお伺いしたいと思います。

**市民生活部長：**まず、将来のことを見据えてと言われるとおりですので、先ほども言いましたように、やはりまず今できることということから進めていく必要があるのかと思いますし、一

人暮らしの高齢者ということになりますと、福祉面からのそういうものも今は福祉有償運送とかも NPO でやられたりしています。ですから、もし体が不自由になったりすれば、そういうものを利用することも可能です。その辺のどこまでが公共交通で、福祉的な分野でというのが難しいところになります。ですから、その辺を日光市としても、どこにどれだけ重点を置いてやるのかということにならざるを得ないのかという感じがしています。それから、確かに利用が少ないので大きなバスは必要ないということです。今までも他の路線で、市営バスを小さなバスに変えてきておりますし、当然大きいバスよりは小さいバスのほうが、最初に用意するのには安くはなりますが、運営していく中では、大きな差でなく、要は1日何便、そして燃料費や運転手の人件費です。これが多ければ2人でしょうし、少なければ1人分でしょうし、それは公共交通も他の手段も一緒ですので、そこは最低限必要になる経費となります。

**参加者：**バスがなくなりますと、学生や高齢者が困ると思います。利用客が少なればサービスも悪くなるし、本数も減るし増々不便になってしまいますので、利用客が多くなるように市民にサービス券を配って利用してもらおうとか、利用客を増やすような考えでやってもらえたらいいのではないかと思います。

**市民生活部長：**そもそも民間がバスを動かしていたときから成り立たなくなってきたので、市営とかに変わってきているわけです。サービス券などでたくさん使っていただければ、それだけ薄まることは薄まるのですけれども、かなりのものをかけないと日光市もバスを動かさないです。ですから、利用していただくのが一番いいことなのですけれども、今度のデマンドにしても安ければいいのかということだけではなくて、いろいろな目的をもった方が、いろいろな使い方をしたいと、それに全部答えられるかというところが難しいところです。繰り返しになってしまいますが、どんな人を、誰がどうやって救っていくのかという、どれを優先するのかということからスタートしないと、全部が全部というわけにはいかないのです、そういうところがなかなか難しいところです。

**市長：**事前アンケートに、自分たちにできることは、なるべくバスを使うことと、非常に積極的な記載があるのですけれども、バスであるとかそういうものを離れますと、日光市が株主であり出資している、わたらせ渓谷鐵道や野岩鐵道も、やはり日光市が経営参加しています。そのどちらにも利用促進協議会というものがあります。利用を増やさないと赤字が増えて、日光市や栃木県の負担になってしまいますので、その負担を減らそうと、そのためにお客さんにたくさん乗っていただくというような協議会もあるのですけれども、できれば塩野室地区の皆さんも頑張って、皆さんバスに乗りましょう。そのような協議会もできれば非常にいいかと思います。非常に難しい課題でありますけれども、やはり乗りましょうということは大変なことかと思います。減れば減るほど、やはり日光市の負担が増えてくるということです。このような積極的なご意見は、大変ありがたく思っています。

**参加者：**バスの話なのですけれど、バスは結構高いのです。ですから、免許証のある高齢者の方々は、まず乗らないと思います。実際、通院しても80歳以上の人が、危ないながらも運転して行きます。非常に運転が危ないです。塩野室地区でも2件の交通事故がありまして、それもだいたい皆さん高齢者です。それから通学の問題なのですけれども、やはり宇都宮市まで行くのに1,600~1,800円くらいかかります。ですから皆さん電車を利用するために、下野大沢駅まで送り迎えをしているのが現状です。これからもそういうことが多くなると思いますし、バスの利用も少なくなると思いますので、これから先ここに書いてある、自家用有償の認可制のボランティアオンデマンドタクシーの導入等を考えていったらいいのではないかと思います。

**市民生活部長：**高齢者という部分につきましては、高齢者対策の中でどこまでできるかというのを考えていくべきなのかと思います。それから自家用有償というお話が出ました。簡単に言えば白ナンバータクシーなのです。それを合法的にできるというのも道としてはあるのですが、そこはやはり公共交通という大きな枠の中では、民間事業者が、まずは担い手だという大前提がありますので、そこを無視して自分たちだけでという道を選ぶのには、やはりそういったご理解をしていただくことが必要になってきます。それを選ぶとなればできないことはないのかというふうに思っていますが、ただ、お金のことを考えますと、おそらくバス料金よりは安くすることは難しいかもしれません。10キロ先へ人を運ぶのに何がかかるといって逆算していきまると、投資した自家用車の値段、燃料代それから運転者の謝礼と言っても気持ちなど、そういうものを考えていきますと結構な値段になっていくようです。栃木県にはないのですけれども他の自治体の話だと、タクシー料金の半分程度というのが相場だというようなことを聞いたことがありますので、それなりに自分の安全を守るという部分もありますので、そういうものはかからざるを得ないというところも考えておかないと、先ほどありましたけれども、簡単に取り入れてなくなったらどうするのかということになりますので、時間をかけてじっくりと考えてみる必要があるのかと思います。可能性としては、当然あるというのは認識しております。

**参加者：**今、皆さんの意見を聞いていて、バスの本数を多くしようとかいう話もわかるのですが、やはり人間の血液に例えて、動脈と静脈は太くて流れが活発なのです。ただ、今、私たちの地域で困っているのは、動脈につながる毛細血管から血液を動脈までどうやって運ぶかだと思うのです。私自身の考えですと、バスの利用者が少ない、バスが嫌なのではなくて、きっとバスに乗るのが不便なのです。いくら増やそう増やそうと言っても、私の場合ですと親父が年齢なものですから、免許証を何度か返せと言ってやっと返したのですが、そうしたら今度はバスに乗るためにどちらに行くにしても、山を一つ越えないといけません。私がいるときは車で乗せていきますが、いないときに行きたくないと、山を越えて行って来たと言います。確かにその辺のところは難しいと思います。ただ単に、バスを安くしても利用が増えると思えないのです。ただ、先ほど言った主幹線に交通手段が何かあれば、もっとバスの利用も増えるのかと、その上でバスは嫌だと言ったらということになると思



うのですが、あまりにも課題が大きかったもので、勝手に書かせてもらったのですが、そのときのものを一通り読んでみますと、課題として自主移動の手段、自家用車等の持てない子供や高齢者、もう少ししたら私自身の問題になると思うのですけれども、他の人の力を借りなければ移動は困難です。現に私自身がそうだからです。解決策は定期的あるいは必要時に利用可能な交通手段を設置するということです。私の母親が一級の身体障がい者だったものですからタクシー券はいただいています、それがなくなるまでは大変便利に使わせてもらっています。遠くではなくて、近くの診療所に来るだけで使っていたものですから、本当に何日間かは大いに助かりました。それから親父も免許証を返納したときに、タクシー券をもらったものですから、やはり私が何回か送らないで済みました。眼科に行ったり町中で買い物をしてきました。大変こういう制度もいいなという感じも一瞬だったのですが、利用者にアンケートを取ってまとめて、大きな脈にしようとすると思いがちです。末端は皆さん時間も事情も違うので、それがある程度グルーピングする必要があると思うのですけれども、その上で例えば公民館発のここまでのシャトル便とか、そういうものを用意しておいて、ここからは先ほど言った、もし子供たちを電車に乗せたいのなら、朝の時間にここから下野大沢駅までシャトル便で運ぶとか、そのようなことをしたらどうかということでアンケートに書かせてもらいました。この辺はそういうことで使う時間が一定しませんから、小さい車一台に7人ぐらい乗れる車を置いて、要請があるときだけ使って、5~10分待ってくれで済んでしまうような交通手段が可能になれば、結構便利になると思います。ですから、このセンターがそういうものの動脈につながるための駅みたいな感じになっていて、ここにサロンを作ってお茶でも飲んで行けると面白いかと思って、勝手なことを書かせてもらったのですが、そのようなことで書きました。

**市長：**構想は非常にいいと思いますが、現実には非常に難しいです。ただ、その中で運用費用等は自治会等で準備すると書いてありましたが、自治会でお金を出すことは可能ですか。

**参加者：**そういうことなので、費用とかの話になってきます。ですから、やはり何でも日光市に公共の金でやれというのは虫がよすぎると思うので、もし自分たちの身に降りかかったら、個人で出すのは難しいから、自治会単位でそういう基金みたいなものを設けて、利用できるものに少し援助するとかをしないと、現実では可能にならないと思って書いたのです。それプラス日光市の援助みたいなことでやっていかないといけないと思います。

**市長：**沢又だけではなくて、塩野室全域とかですね。

**参加者：**もちろんそうです。ですから、小林地区の一番の中心はここで、後は各自治公民館にポイントとなる駅みたいなものがあって、ここに7人乗りくらいの車一台があって、何時と決めると利用者が少ないという話になりますから、要請があるときだけ運行します。先ほど言ったここから駅まで使うというのは集まりますから、それは特別便みたいなものでもいいのかなと思います。

**市長：**南部地区のデマンドタクシーは、実質半分ぐらいは市の助成です。今、介護も増えたりしていますけれども、多分今の状況が目一杯だと思います。皆さん頑張っても中々それ以上に経費が安くなるのは難しいと思います。ぜひ、その発想を活かしたいと思います。何かの検討のときには、また面白い構想を出していただければと思います。

**参加者：**小林地区の小学校の場合、人数がずいぶん少なくなったので、小・中学校がよその小・中学校と合併するのか先々のことはわかりませんが、子供たちにおいては、大沢の事件がありましたように、下校時に事件が起きているわけです。スクールバスの運行を望みたいと思います。また、高齢者におきましては、塩野室地区には2戸の店しかないので、今市とか宇都宮市に行くには、交通の便がとても悪いということで、特に県道以外の自治会では、買い物のほか病院に行くのも大変であるということで、財政の厳しい中デマンドバスの運行を望みます。また、先ほどの説明にありましたように新交通計画平成29年度策定予定とありますが、財政の厳しい中大変でしょうけれども、しっかりと検討よろしく願います。

**教育次長：**1つ目のスクールバスの運行に関してなのですが、日光市でスクールバスを運行しているのは、学校が廃校になって遠距離になってしまったという場合には、スクールバスを動かしています。登下校時の子供の安全というところは、大変私たちも重要視してまして、例えば、大沢小学校だとひまわり隊という活動があって、地域の皆さまの見守りの中で、登下校を見ていただいているようなことがあります。安全のためにスクールバスというのは、今まで例がありません。ただ、子供の登下校という部分では、保護者の皆さんや、地域の皆さんのご協力をいただきながら、安全に登下校していただきたいと思います。

**市民生活部長：**繰り返しという申しわけないのですが、先ほどのお話のとおり、お金のかからないお隣さん方式でやるのはできると思います。これは認可とかいらぬからできますが、冒頭に話したように謝礼とか、そういう話になりますとなかなか決めるのは難しいです。運転手は2種の免許証を持たずできるというものですから、誰しもできます。ですから、安全面や保障面とかそういうところを考えていきますと、どうしても自家用運送という認可を取るのが一番いいのかと思います。結局はそこに行きついてしまいます。そういうことになると、地域の力、それから経済的な面に、日光市がどのくらい支援できるかと、そのようなかたちになるかだと思います。本当に、どうにかたちがいいか考えていかなければならないと思います。

**市長：**なかなか難しい課題で、歯切れが悪くて申しわけありません。

**参加者：**現在、民生委員のほうは矢野口と沢又が1つのブロックになっているのですが、今は矢野口の方に民生委員をやっていただいています。沢又の方が、病院に行くので家まで迎えに来て、私を病院に連れて行ってくれと言った方がいるそうです。バスが矢野口から出て

いるので、何時のバスに乗ったらいかがですかと言いましたが、その乗り場まで私は足が悪いので行けないから、あなたに頼んでいるのだということでした。その民生委員の方は、そこまでやる必要はないと思ったのですが、一応業務だと思って、その方を乗せて病院まで乗せて行ったそうなのですが、大きなバスをずっと走らせても、ほとんど乗る方がいなくて、バス乗り場まで行ける方がだんだん少なくなって、バスをただ走らせていても無意味なのです。毎日需要があるわけではないと思うのですが、市役所のほうで、それに対応できるような方を補助金か制度を設けて、もちろん遊びに行くというのはだめだと思うのですが、病院等のどうしても生活に関わることで、また、足になる方を見つけていただいたらいいのではないかと思います。皆さんバスの確保と言っていますが、あと20年経ったら私の住んでいる沢又などはかなり高齢化で、バス乗り場まで行ける人は何人もいなくなってしまいます。そうすると、バスを確保されても、ただ無意味にバスが通っているだけで、私は利用価値がないと思うので、どうか家まで迎えに来て病院等に行ったり来たりしている方を、助成か制度をつくってやったほうが、私は現実味があるのではないかと思います。

**市民生活部長：**お気持ちの多くはわかりまして、そのとおりだと思います。繰り返しになりますが、福祉的な高齢者を救う部分というのを、連携はしますが公共交通とは切り離して、どこまで救えるかということは、福祉分野から説明いたします。

**健康福祉部長：**先ほどからずっと出ている幹線道路にバスがあって、そこまで行くことができないのは、本当に重大な問題なのだろうと改めて思いました。先ほど市民生活部長の話したとおりだと思うのですが、細かく正確に控えていないので間違っていたら申しわけありません。幹線道路にバスが走っている、認可をいただいてやっている事業ですから、これを活かすというのが大前提になります。そうするとそれがあつたから、例えば自家用車運送で、他の仕組みをそこにに入れてしまうと、もともとの認可されている事業が成り立たなくなるわけです。バッティングしてしまうから、何でもできるというわけではないというのが、ずっと説明にあると思います。支線のところまで行けない、その部分は空白地帯と言えるのかどうかは、そういうことは検討する余地があるのだと思います。今の体系だとならないのであれば、先ほど出ましたが、自分たちでそこを運ぶような仕組みというのであつたのであれば、そこは有償運送にならない部分になってくるのですけれども、事故があつたときにどうするか、いろいろなことが出てくるので、検討する課題がいっぱいあると思うのですが、皆さん方で困っていることがそういうことである、しかも自分たちでこういうことができそうだと、市役所も何かこういうことでできないかということであれば、解決策は簡単ではないのですが、そこは一緒に考えていって、ライドシェアという自家用車で人を運ぶという動きがあつて、特区を取つて京都の自治体でやっているところもあるみたいですが、そういうものができれば、そういう現状で困っている問題、それに対しても対策というものがやはり出てくると思います。だから我々が一緒に考えるのも大事だし、そういう動きを見ながらできることを取り入れていく、そういうことしか

ないのかということに改めて感じたところです。

**市長：**今、一通り皆さん方にお話ししていただきましたが、協働のまちづくりというテーマにしては、交通手段の確保というのは、この地域にとってはやはり非常に切実な問題であるのは間違いないのですが、協働で皆さんが何をできるのかということ、これは難しいです。8割方は、行政のほうで構築しないとできない課題かなと思っています。何回も同じような繰り返しの答弁になって申し訳ないと思っているのですが、そのような中であっても1割でも2割でも協働の部分があるとすれば、皆さま方の今までいただいたご意見を、ぜひ、次の計画に反映したり、現実はどう解決するかという観点から、結論を見つけていきたいというように思っています。まだ時間がありますので、言い足りないという方は続けてお願いしたいと思います。今日は欠席の方が、和田地内県道今市～氏家線に押しボタン式の信号機を設置してほしいというのですが、通学路なので警察には話をするということです。他の欠席されている方も、同じような交通対策関係や高齢化とか、ほとんど買い物の意見をいただいております。

**参加者：**自治会長会で建設部にお願いしているのですが、実は今市～氏家線の拡張の問題を、日光土木事務所のほうにもお願いをして申請書の書類の段取りをしています。あと、塩野室地区にファミリーマートが開業するので、日光土木事務所で説明に来て、実施に入ると思うのですが、それから塩野室郵便局の間の問題、それからファミリーマートから交差点の間の問題、それからスポーツセンターの誘致の問題です。路線は2つなのですが、その要望を県に出したいと思っています。合わせて今度は、篠井方面で非常に狭いところも要望しているので、いろいろなことをこれから日光市のほうに要望したいと思っています。

**建設部長：**今、言われた箇所については、日光土木事務所と調整した上で、自治会の方と一緒に邪魔することになっています。宇都宮市においても、県の要望に入っています。

**市長：**日光市としても知事や議長に年1回要望をやっていますから、また要望したいと思います。